

科学研究費補助金（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	20222001	研究期間	平成20年度～平成24年度
研究課題名	史料デジタル収集の体系化に基づく 歴史オントロジー構築の研究	研究代表者 (所属・職) (平成26年3月現在)	林 譲(東京大学・史料編さん所・ 教授)

【平成23年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準
A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A 当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	B 当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C 当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
(意見等)	
<p>本研究は、基本的には史料フィルムのデジタル化とアーカイブハブの構築、ならびにそれらの作業をベースとする歴史オントロジーの構築に向けた研究よりなる。</p> <p>前者については、成果の公表に関して、奈文研との公開データベース共有などを別にして必ずしも十分ではないなどの問題が見られるが、全体としてほぼ計画通りに順調に進展していると言える。後者については、現時点での具体的な成果が目覚ましいものとは言えない。ただし、研究の方向性についての検討は進んでおり、当初の研究計画を達成することは可能だと思われる。その他の点で（震災の問題は別として）、とくに問題は無いように思われ、研究全体としてほぼ順調に進展している。したがって、本研究はほぼ期待通りの成果が見込まれそうである。</p>	

【平成26年度 検証結果】

検証結果	史料フィルムのデジタル化とアーカイブハブの構築に関しては、全体としてほぼ計画どおりに順調に行われ、初期の目的は達成されており、高く評価できる。東京大学史料編纂所のデータベースは以前にもまして研究のツールとして使いやすさが向上しており、多方面での研究の進展が期待できるようになった。
A	<p>ただ、それらの作業をベースとした歴史オントロジーの構築に向けた研究となると、實際上、その概念規定があいまいなこともあって、どこまで進捗したのかが明示されていないのが残念である。</p> <p>しかし、総合的に判断すると、当初目標に対し、期待どおりの成果があったと言える。</p>